

災害時や大規模イベント時の新たな交通モニタリング手法

災害や事故はどこでも起こる可能性がある一方で、管内のCCTVカメラでは管理区間全てを網羅できておらず、交通モニタリング体制が十分とは言えない状況であり、災害等の発生時に、交通状況の把握に時間を要するという課題があります。

これらの課題の解決に、場所・時間等にとらわれず、活用可能なドローンに着目し、新たな交通モニタリング手法の検討に着手します。また、大規模イベント開催時における限定的な交通状況の変化を確認する手法としての活用も併せて検討します。

新たな交通モニタリング手法



AIによる画像解析等のデジタル技術を活用

- ・渋滞発生 の判定
- ・交通量・滞留長の観測等

正確な交通状況をリアルタイムに情報提供

<実証内容>

■令和5年度

モニタリング技術の公募

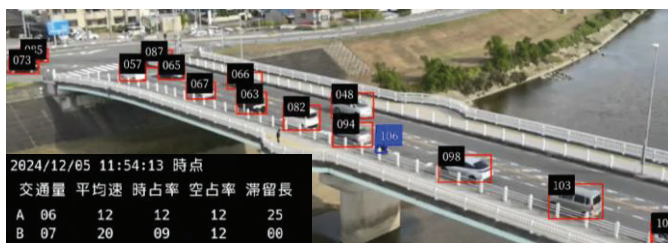
■令和6年度

大阪府域において交通モニタリングを実施（交通量、滞留長等）

■令和7年度

万博会場周辺において交通モニタリング実証（交通量、滞留長等）

【令和6年度の実証実験状況】※R25国豊橋（大阪国道事務所管内）



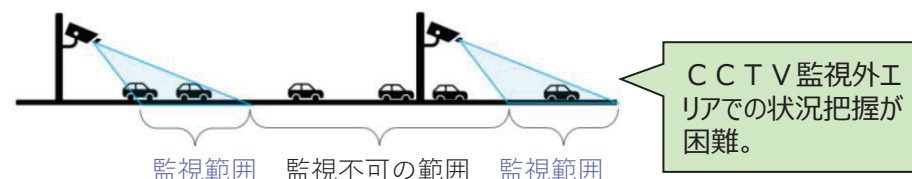
↑リアルタイムに車両の交通量、平均速度、滞留長等の取得が可能。

将来イメージ

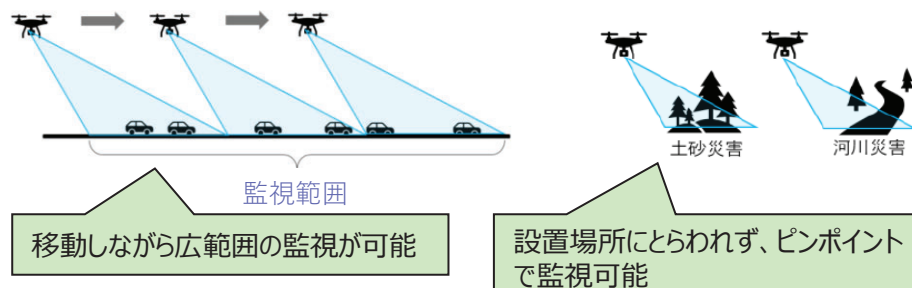
・災害時交通マネジメントへの活用

災害や事故時が発生した際、道路における被害状況及び交通状況を速やかに把握し、周辺道路における渋滞対策や迂回路への誘導、バス運行ルートの確保等の支援（交通マネジメント）の実施を行う。

【従来のモニタリング手法】



【新たな交通モニタリング手法】



ドローンにより、場所・時期・時間帯にとらわれず、管内の道路状況等の把握が可能。